



考えて

やってみて

次の意欲へ

創造・挑戦・感動

篠山東中

学校だより

7月号 No.5

一学期を終えて

～「very good(とてもよい)」と「good enough(これでよい)」～

新たな目標を抱いてスタートを切った4月。あれからはや4か月が過ぎ、間もなく令和7年度の一学期が終了します。

振り返れば、生徒たちが多くの成功、失敗体験を通して、「個」として「集団」として、ひと回りもふた回りも大きく成長してくれたことを、心から嬉しく思います。

いよいよ夏休みに入りますが、どうかそれぞれのご家庭で、この一学期間のお子様の取組を振り返っていただき、充実した有意義な夏休みが過ごせますよう、お願いいたします。

さて、「very good(とてもよい)」と「good enough(これでよい)」という言葉があります。前者は他者との比較で用いられることが多く、後者は自分を受容するという意味で用いられます。

誰かとの比較や目に見える結果だけを捉えるのではなく、子どもたちが「目標」や「めあて」の達成に向けてどのように取り組んだか。その取組の過程や頑張りを、是非、親子で一緒に振り返ってください。

子どもたちは、「今の自分を受けとめてもらえている」「自分の頑張りを分かってもらえている」という支えがあって初めて、「これでいいんだ!」「今の自分でいいんだ!」「また、次頑張ろう!」と思えるものです。身近な大人の理解こそが、受容へとつながるのです。

※そのためにも、親としてお子様の本当の価値を知り、信じ、支えていただきたいと思います。そんなとき、いつも、この八木橋雄次郎さんの「通信簿」という詩を思い出します。昨年に続き、今年も紹介します。

通信簿

八木橋雄次郎

わが子よ

通信簿に記載された評価が思わしくないからと
涙を流すことは やめよ

父は 信じている

おまえは これまで

一円のものもごまかしたことがなかったことを

友だちとの約束は いつもはたしてきたことを

そして おさない者をかわいがり

弱い者をいたわってきたことを

その潔白けつぱくと信義しんぎと親切とは

人間として生きていくための至上しじょうのものだ

それなのに

おまえの通信簿のどこに

そのことが記載されているというのだ

わが子よ

涙を流すことは やめよ

おまえの父と母とが目ざしている

もつともつと大きな通信簿に向かって

歩いていこうではないか



※保護者・地域の皆様には、この一学期間、本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。ご迷惑をおかけしたこともありましたが、皆様のお陰で、大きな事故や怪我なく、無事教育活動を終えることができました。間もなく夏休みに入りますが、引き続き本校の生徒に対しまして、ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

生徒の皆さんへ 2つのメッセージ！

叱(しか)ってくれる人のありがたさ

皆さんは、誰かに注意をされたり、叱られたりしたとき、どんな気持ちになりますか。

「うるさいな」と思ったり、「自分ばかり」とふてくされたり、反発したくなることがあるかもしれません。

でも、少し考えてみてください。叱ってくれる人は、皆さんのことを本気で考えてくれている人です。本当にどうでもいいと思っている人にわざわざ言葉をかけたりしませんし、失敗をしても、きっと知らないふりをしているでしょう。でも、皆さんの可能性を信じているからこそ、厳しい言葉もあえて言っているのです。

注意をされると心が痛むこともあります。でも、その言葉に込められた思いを素直に受けとめられたら、皆さんは必ず成長できます。苦い言葉を飲み込む勇気が、自分を変える力になるのです。

中学生の今は、心も体も大きく成長する時期です。だからこそ、素直になれない時もあるでしょう。それでも、「あの人は、自分のことを思っていて言ってくれている」と気づけたとき、その言葉は、人生の宝物になります。

そう考えると、「叱る」という行為は単なる否定や非難ではなく、愛情や期待が込められた贈り物かもしれません。特に、学校生活（学習や生活、また部活動など）の中で、皆さんのことを真剣に考え、勇気を持って厳しいことを言ってくれる人がいることは、本当にありがたいことです。

どうか、皆さんを真剣に叱ってくれる人の言葉に耳を傾けられる素直さを持ってください。そして、その人の存在を大切にしてください。それができる人は、間違いなく、強く優しく成長できる人です。

便利な時代だからこそ大切にしたいこと

今、私たちはスマートフォン一つで何でもできる時代に生きています。調べもの、買い物、連絡…どこにいても瞬時に解決できる便利さに囲まれています。

でも、ちょっと立ち止まって考えてみてください。辞書を引いたり、図鑑をめくったり、誰かに尋ねたりして、時間をかけて何かを得ることに「学び」や「発見」の感動がありました。人と直接会って話すことで、「気持ちを伝える力」や「思いやる心」が育ちました。

【本当の学びは体験にある】

- ・実際に目で見て、手で触れて、感じることで、記憶に残る「発見」や「感動」があります。
- ・自分で考え、自分で行動することで、「自信」や「責任」が育ちます。

【人と話すことは自分を知ること】

- ・対話を通して、自分の考えを整理し、相手の考えを理解できます。
- ・言葉のキャッチボールの中に、優しさや工夫が生まれます。

技術は私たちを助けてくれる大切な存在です。でも、それに頼りすぎると、体験機会が失われ、人との会話も減り、相手の気持ちを考えられなくなってしまうかもしれません。だからこそ、「あえて調べる」「あえて話す」「あえて感じる」ことに、これからの時代は意味があると思っています。皆さんには、AI（人工知能）にはできない力が備わっています。その力を信じて、大切に育んでいってください。

今週末から夏休みが始まります。休みといっても、部活動、宿題、習い事、遊びと、そのんびりは過ごしてはいられません。3年生にとっては、進路選択・進路決定という大きな課題も迫っています。

当然、必修課題はやり遂げなければなりません。でも、与えられた課題だけやっていたらいいわけではありません。何か一つでも、「自分がやりたいと思うこと」「興味のあること」をやり遂げる。是非、そんな夏休みにしてほしいと思います。

9月1日（月）の始業式に、皆さんの元気な姿に出会えることを楽しみにしています。